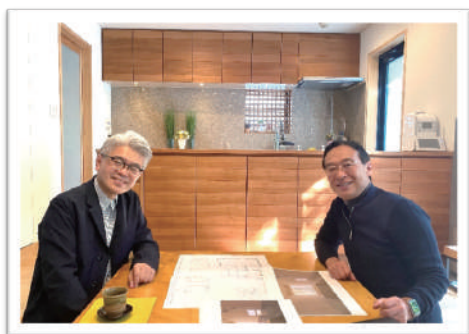


また、最近の夏は暑く、創業当時の高山は、真夏でも30℃を超えることはなかったのですが、最近では30℃を超える日はザラで35℃を連日超える日もあり、ショールームは蒸し風呂状態となるため、やむなくエアコンを一昨年設置しました。

また、逆に冬は暖かくなったと感じています。雪が昔に比べ降らなくなり、道路に雪が積もることも少なくなり、以前は屋根の雪下ろしも年に3～5回やっていましたが、ここ数年は1回あるかないか、その面では助かっています（笑）。



我が家にて上野社長と。バックが改装後のキッチン

木材のことで、最近言われたしたのは、木が乾かないと言うことです。木は、春から夏の間は地面から大量の水を吸い上げ、光合成を活発に行い成長し、秋から冬の間は水を吸い上げることを止め、休眠状態になりますので、冬は木も乾燥しやすく、伐採に適した時期です。しかし、近年の気候の変化で秋になっても水を吸い上げ続けている為に、冬季に伐採した木も水分が多く、なかなか乾かない現象が起きています。水分の多い木材は、後々問題が出てきますので使用できません。

F: 私もアウトドアで多くの経験をしましたし、大自然から多くのことを教えられました。木や森に関する楽しいお話をお願いします。

U: 雪が降り積もった森にスノーシュー（雪の上を歩く為の道具）を履いて入ると、雪がない時は藪だらけで歩くことが容易でない森を自在に何処へでも行ける様になります。冬の森は、明るく、空気は澄み、白銀の世界に真っ赤な実を付けたソヨゴの木は実に美しいものです。ウサギなどの足跡も見つけることができ、鳥たちの姿もよく見ることができます。

F: 本当に雪の積もった早朝の雪原はきれいで、そこを歩き回る爽快さは、動物になったようで格別ですね。

ところで、私は、「美しいものは使いやすい。機

能的に使いやすいものは、見ても美しい。」と考えていますが、その反面、格好よくても使いにくいものもたまにあります。

丹下健三先生の建築も、使う人の立場から見ると随分使いづらいようにも聞いています。デザインや意匠と、使い勝手の良さについて、率直なお考えをお聞かせ頂ければ幸いです。

U: モノを造るときにいつも考えていることは、「それは美しいか？」ということです。建築は何を目的に造るのかということもあり、使う用途によって違ってきますが、美を追求するあまり使い難い建物になることもあると思います。多くの建築家は常に抱えている課題だと思います。

また、建物の外観は、個人のモノであっても、外部に面して人の目に触れるもので、美しい町を造る一員でもありますから、その点はしっかり考えたいところです。かつての日本の美しい街並み、美しい風景は、気候風土を考えその地で採れた素材による家造りであったと思います。

今一度、そんな考えで家造りをしたいものです。そうすれば、自然と一体化するものが生まれ、美しく暮らし易い家造りができると考えています。

* * * * *

F: お話は変わりますが、上野さんにとって、座りやすい椅子とはどのようなものでしょうか。上野さんが座りやすくて、他の人が座りやすいとは限りません。どのように考えて、椅子を設計しておられるのでしょうか。椅子も、その人の体格に合わせたオーダーチェアがふさわしいのでしょうか。

U: 椅子の設計を手掛けることになったきっかけは、私が設計した家のご主人から、この空間に合う家具も設計してくださいと言われたことからでした。

飾り棚やテーブルは何とかなったのですが、いざ椅子となるとイメージは浮かんでも本当に作れるのか、座り心地はよいのか、皆目見当が付きませんでした。職人達に助けられ何とか形にして納めさせていただきましたが、座り心地に関しては…（笑）。

